

秋津書道によって掴んだ

「守破離」の境地



中田恵三 ■ 家庭倫理の会大阪市(大阪)

私は平成十五年に大阪市の倫理法人会と出会いました。以来、吹田市倫理法人会の会長職も経験させていただき、営んでいる会社の継承についても大きな学びを得て、「生涯離せない学びだ」とますます倫理の普及に努めております。

さて倫理法人会に入会后、個人会員の勉強の場である家庭倫理の会の存在を知り、また家庭倫理の会大阪市には秋津書道会の中央東支苑があると知りました。

私は小学二年生から十年間、社会人になってからも三年間書道を習っていました。が、起業して仕事が忙しくなり書道も約二十年間遠のいていました。

しかし仕事や倫理の普及などでお礼状を筆で書くことが習慣になっており、へいつか機会があれば改めて書道を習いたい」と願っていました。そんな矢先でし

たので渡りに船で、平成十八年に家庭倫理の会大阪市に入会すると同時に、秋津書道を学び始めました。

墨を磨って筆を持ち、集中した無の世界で仕事を忘れ、雑念を忘れられるのは望外の楽しさでした。尊敬できる今井明子書道講師に出会い、この先生に付いていきたいとやる気が芽生えて、励みになりました。

支苑には書を生き甲斐にされている高齢者の方も多く、皆で切磋琢磨するその姿に学ばせていただきました。

練習を続けるうちに一般部から高等部へと進み、『秋津書道』の競書で写真版に掲載される機会も増えました。

また年一回、中之島中央公会堂という立派な施設で開催する家庭倫理の会大阪市の書道展に参加することにより、条幅

の大作を仕上げたり作品を作ったりする喜びや自信もついてきました。

当時の書道展では、今井書道講師のご主人である英和氏(天の部)による参加作品の解説を聞くことができ、書道の奥深さに感動したものです。

倫理の仲間にも声をかけて今では十人近く一緒に学んでおり、芸術部を目指す仲間も出てきています。

念願だった兄との書道

私には兄が一人おりますが、昔から大変仲が良く、習字を子供時代に習ったのも、この兄の影響です。兄は世界を股にかけるビジネスマンで、社長業という責任もあり忙しく、なかなか秋津書道には誘えませんでした。

しかし平成二十五年の暮れに兄が、是

非とも私と一緒に秋津書道を習いたいと言ってきたのです。

平成二十六年初の中央東支苑の書道の例会は、一月四日でした。私自身はお正月であることにたじろいで欠席したいと思っていました。兄は是非とも初回に出席したいと譲りません。

兄の意志の固さに負けて出席することを決め、前日の三日はお正月休みで時間がありましたので、『秋津書道』の新年競書課題であった「青松終古春」に草書で取り組みました。

兄が来るというので張り切り、お手本



平成二十六年の新年競書で一席をいただいた記念の作品です。

を参考に二十枚以上も練習して書き上げたのですが、なかなか思うように書けません。

とりあえず書き上げたものを翌日持参して今井書道講師に見せると、講師は、「この書はお手本にとらわれ過ぎていて窮屈だ」と言い、自分ならこう書くと、鉛筆で小さな紙に書いてくださいました。

その指摘を受けて、手本の形から解放されて良いのだと思つた途端、今までにない勢いのある伸び伸びとした筆遣いができ、何にも囚われない境地で作品を書きあげることができたのです。

そしてようやく満足がいく書ができあがり、今井先生にも兄にも見てもらえたことに内心ほつとして、作品を提出しました。

この体験を通して私は、「道」を究める心構えとしてよく言われる「守破離」の意味に思い至ることができ、深い感動を覚えました。

また、仕事にも通じるもの

があると、倫理法人会のモーニングセミナーでも体験を報告させていただきました。

さらに思いがけず、その作品が新年競書の高等部（中部）で一席に選ばれたのです。大森美代選者の評には、「筆勢豊かで堂々と書けました」とありました。

久々の一席という結果が大変嬉しく、また支苑班長さんから私の入選を知らされた兄が、「あつぱれ、自慢の弟だ」とまで言ってくれたと聞き、感激しました。

現在、私は五十六歳、兄は五十九歳になりました。入会后、兄は忙しい仕事の合間を縫って積極的に例会に参加しています。この歳になつても兄弟が共に仲良く学んでいることを亡き父が知つたら、どんなにか喜ぶだろうと思います。

今の私の夢は来年の兄の還暦祝いに記念の書を贈ることです。またこれまではそんな欲もなかったのですが、芸術界格への挑戦も視野に入れて、励んでいきたいと思えます。

そして周囲の方々にも、より積極的に秋津書道の魅力を伝えて参ります。